

平成26年度スーパーバイザー事業報告書

研究テーマ

「生き方を考える教育の実践 ～自律し自立する生徒の育成～」

鳥取市立湖東中学校

スーパーバイザー：大阪教育大学 藤永 芳純 名誉教授

1 はじめに

本校は、教育目標「夢の実現へ向け、見通しを持って今を充実して生きる生徒の育成」のもと、「自分で考え、自分で判断し、自分が行動する生徒」をめざす生徒像とし、教育実践に努めている。今年度は「生き方を考える教育活動の実践を行うことで、学校教育目標の実現に迫ることができる」という研究仮説を立て、授業力の向上を図ること、また授業力向上の一つの方策として、専門教科の枠を超え、共通して取り組める道徳教育に着眼し、道徳の時間の充実を図ることに重点を置いて研究を進めた。

2 研究のねらい

- ・道徳の時間の充実を図ることによって本校のめざす生徒像を実現する。
- ・教科の授業づくりに生かせるような道徳の授業力の向上を図る。

3 研究内容

(1) 研究の概要（主な取り組み）

5月 本年度の取り組み計画と共通理解

5・6月 道徳全体計画・年間指導計画の見直し、別葉の作成

6月26日 道徳授業研究会（3年）

（スーパーバイザー 大阪教育大学名誉教授 藤永芳純氏 招聘）

7月31日 道徳研修会（道徳の授業づくり演習）

（スーパーバイザー 大阪教育大学名誉教授 藤永芳純氏 招聘）

10月22日 第1回道徳ミニ校内研究会（1年）（指導主事 招聘）

2月 5日 第2回道徳ミニ校内研究会（2年）（指導主事 招聘）

(2) 取り組みの具体的な内容

① 取り組みの計画と共通理解

- ・授業研究会は1学年1回とし、事前に学年研修、プレ授業を行い、学年単位で取り組む。
- ・道徳の時間に生徒が主体的に活動する場面を設定する。
- ・特に道徳の時間に「私たちの道徳」を有効に活用する。
- ・「私たちの道徳」（「心のノート」）を教室・校内の掲示物として活用し、道徳に対する意識や道徳性を高める環境づくりを行う。
- ・実践記録を作成し、来年度の道徳教育の推進に生かす。

② 道徳授業研究会（3年）（6月26日）（指導案 資料①）

○主題名 社会の秩序と規律 4－（1） 資料名 「二通の手紙」（「私たちの道徳」）

○授業参観の視点

- ・中心発問はねらいにせまるものになっているか。
- ・生徒が主体的に学ぶ活動の場面を設定しているか。
- ・「私たちの道徳」をどのように活用しているか。

○授業に対するスーパーバイザー（藤永芳純先生）からの指導助言

- ・「二通の手紙」の資料分析→緻密な資料分析を。
- ・全員発言を目指す。生徒の発言を板書する際は生徒の言葉を使う。
- ・「どうすればよかったか」という発問は行動の仕方を問うているのでよくない。道徳は行動の原理となる心を育てる。

○スーパーバイザーの指導助言によって共通理解したこと

・道徳的価値の自覚で大切なのは ①価値の理解 ②自分との関わり ③腑に落ちてうれしいという気持ち
<生徒指導との関連における道徳の時間の役割—『生徒指導提要』を参照>

①生徒に自己存在感を与えること

自己確認においては思考・行動の実感、他者評価においては賞賛・奨励によって高まる。
—公的機会（授業・行事）での出番・活躍が大切＝道徳の時間が最も近接したチャンス

②共感的な人間関係を育成すること

体験をもとにした情報の共有、心情・思考の相互理解・交換—話し合い・聴き合いが大切
＝道徳の時間が最も近接したチャンス

③自己決定の場を与え自己の可能性の開発を援助すること

人間は自由をもつ—よりよい可能性の選択が重要—人間の多様な生き方を学ぶ
＝道徳の時間が最も近接したチャンス

- ・道徳の授業を大切にしていくと教科の授業もうまくなる。



③ 道徳研修会（道徳の授業づくり演習）（7月31日）

○演習内容

演習Ⅰ 小グループによる指導案作成

資料「二人の弟子」（「私たちの道徳」）を読み、主題名と本時のねらい、主発問と予想される生徒の反応をグループごとに考える。

※本時のねらいは「を考えることを通してを育てる」の形で考える。には主発問が入る。

※主発問は、生徒が自分との関わりで考えられるものにする。

※予想される生徒の反応は5つ以上考える。

演習Ⅱ グループ別発表

<各グループが考えた主発問> () は内容項目

- ・智行の涙があふれてきたのはなぜか。(1－(5))(3－(3))
- ・智行が流した涙は何の涙か。(3－(3))
- ・白ゆりの純白の輝きに涙があふれたのはなぜだろう。(2－(5))
- ・上人の言葉「人は皆、自分自身と向きあって生きていかねばならないのだ。」に続く言葉はどのような言葉だろう。(3－(3))

○演習に対するスーパーバイザー（藤永芳純先生）からの指導助言

- ・どの価値項目でも授業はできるが、「私たちの道徳」で設定してある3－(3)がやりやすい項目と考えればよい。
- ・この資料は判断力養成の資料。
智行の涙 = くやしい。どうして道信が許されるのか。(レベルの低い考え)
→目が覚めた。覚醒した。自分の愚かさ、本当に弱いのは誰かの自覚。(レベルの高い考え)
- ・「だから君も～のようなことにならないように」というお説教をしないこと。

○スーパーバイザーの指導助言によって共通理解したこと

<資料分析の6つの視点>

- ①主人公・・・道徳的変容を遂げたのはだれか。
- ②道徳的論点（内容項目－理解・咀嚼・応用）・・・変容がある場合、前後の情報があるか。
- ③山場（場面・ことば・行動）・・・変容が起きたところ。
- ④助言者（きっかけ）・・・自分の良心か、他者か。 ※山場と助言者はセット
- ⑤発問（内面的資質を育てるために）・・・こころを問う。書いてあることは問わない。
- ⑥目的地・・・人間としての在り方・生き方。人間の魅力。

<その他の視点>

- ・形容詞に注目（抽象から具体へ）【例】何が悲しいのか
- ・副詞・副詞句に注目（行動を支える心）【例】くっきりと照らしていた いつまでも立ち尽くしていた
- ・時間の推移（物理的時間と実存的時間）
- ・場所の推移
- ・行間を読む
- ・山場の設定



演習Ⅰ 授業づくり



演習Ⅱ 発表



スーパーバイザー 藤永芳純先生

④ 道徳ミニ校内研究会（1年）（10月22日）（指導案 資料②）

○主題名 真の友情 2－（3）

資料名 「近くにいた友」（「あすを生きる1」文教出版）

⑤ 道徳ミニ校内研究会（2年）（2月5日）（指導案 資料③）

○主題名 人間の素晴らしさ 3－（3）

資料名 「ネパールのビール」（「自分を考える2」あかつき）

4 研究のまとめ

（1）成果

- ・授業研究会や研修会を通して、道徳教育や道徳の時間の指導について教職員の意識や意欲が高まった。特に授業研究会、ミニ校内研とも学年単位で取り組んだことで成果が上がったと思われる。
- ・スーパーバイザーの指導助言により、主題（道徳の内容項目）とねらい、主発問の関わりについて理解を深めることができた。特にねらいと主発問の関わりについては、各教科で取り組んでいる「見通しと振り返り」「主発問を通した考えさせる授業づくり」にも生かしていけるものである。
- ・スーパーバイザーの指導助言により、道徳の資料分析の方法やポイントについて共通理解することができ、その後の授業実践に役立てることができた。今後も継続して活用していきたい。
- ・学校教育アンケートの結果を見ると「道徳の授業では自分の意見を発表することができる」に肯定的に回答した生徒が5月は53.4%だったのに対し、11月は60.9%に増えていた。また「道徳の授業の話合い活動の中で自分の考えを伝えることができる」に肯定的に回答した生徒は5月が68.2%に対して11月は72.5%と、同様に増えている。道徳の時間の充実を目標に取り組んできた成果であろう。

（2）課題

- ・今年度は資料の分析や主発問の設定に重点を置いて研究を進めてきたため、生徒が主体的に学ぶ活動の場面をどう設定するかについての議論が足りなかった。今後は生徒の多様な学習活動を仕組んでいくことにも目を向けたい。
- ・本校のめざす生徒像「自分で考え、自分で判断し、自分が行動する生徒」の実現に向け、指導内容の重点化を図る必要がある。道徳の重点目標を見直し、全職員で共通理解して取り組んでいきたい。

第3学年 組 道徳学習指導案

平成26年6月26日(木)

- 1 主題名 規則の意義 (内容項目 4-(1))
- 2 資料名 「二通の手紙」(出典「あすを生きる 3」鳥取県版 文教出版)

3 主題設定の理由

わたしたちが生活している社会には何らかのきまりがあり、このきまりを守ることで、社会生活の秩序が保たれ、個人の自由が保障されている。しかし、これらのことを理解しても、権利ばかりを主張し、自分に課せられた義務を果たさなければ、社会生活を維持することは難しい。そこで、社会生活を維持し、よりよいものにするためにも、一人ひとりが他人の権利を尊重し、自分の権利を正しく主張するとともに、社会のきまりを守るなどの義務を確実に果たそうとする態度を育成することが重要である。中学生の時期は、人間が社会の中で生きているという自覚が深まり、法やきまりの意義を理解できるようになってくる。しかし、自我の発達が著しい時期でもあり、自分の行動を制限・拘束するものとして、法やきまりを軽視したり反発したりすることもある。また、法やきまりによって保障される個人の権利は強く主張するものの、自分の果たすべき義務を果たそうとしない場面も少なくない。

本学級の生徒は、学校のきまりを守って生活しようとする生徒がほとんどである。しかし、中には個人の判断や一時的な感情など、自分の都合で「やるべきこと」より「やりたいこと」を優先してきまりを守れなかったり、守れない生徒に対して不満を感じても、注意するなどの働きかけができない生徒が多い。

本資料「二通の手紙」は、動物園の模範的職員だった元さんが、幼い姉弟への同情心から園の規則を破って入園させてしまい、姉弟の母親からは感謝されるものの、懲戒処分を受けるという話である。元さんの幼い姉弟にとった行動は心情的には十分理解できるものではあるが、そのために多くの人に迷惑をかけてしまい、一歩間違えれば姉弟の命に関わる大惨事へとつながった可能性もあったのは事実である。規則の意義や規則と「公」と「私」の関わり、権利と義務について考えを深めることのできる資料である。指導にあたっては、規則違反であると分かっているにも関わらず姉弟を入園させてしまった元さんの思いや、そこからとった行動について考えることを通して、個人の判断や一時的な感情で行動することが社会の秩序を乱し、自他の権利を奪うことにつながることに気づかせたい。また、きまりを守ることが自他を守り、よりよい社会や学校をつくることにつながることを再確認し、自らもきまりを大切に生活していこうとする意欲を高めたい。

4 本時のねらい

個人の判断や一時的な感情に流されず、集団の秩序を守ったり、自他の権利を保障したりするためにきまりを大切にしていこうとする意欲を育てる。

5 準備物

私たちの道徳、資料(プリント)、ワークシート、写真、ホワイトボード、マーカー、イレーザ

6 本時の学習過程

学習活動	○主な発問 ・予想される生徒の反応	・留意点 ○評価 (方法)	時間
1 身の周りの様々なきまりについて考える。	○写真から、普段どんなことに気をつけているか。 ・名札をつけること。(制服姿の写真)	・交通ルールや学校でのきまりの写真を見て、身の周りには様々なきまりがあることを確認する。	5/5
2 資料の前半部分を読んで考える。(はじめ～姉弟の母親からの手紙)	○元さんが幼い姉弟を園に入れた行動は正しかったと思うか、間違っていたと思うか。また、なぜそう思うか理由も考えよう。 【正しかった】 ・姉弟が入園できなければかわいそうだから。 ・困っている人を何とかしてあげたいという気持ちは大切だから。 ・姉弟の母親からも感謝されたから。 【間違っていた】 ・園の職員全体に迷惑をかけたから。 ・もし姉弟が見つかっていなかったら大変なことになっていたから。	・補助発問「動物園のきまりで、『4時以降は入園不可』、『子どもは保護者同伴』などがあるのはなぜだろう。」から、きまりの意義について確認する。 ・元さんの葛藤に気付かせながら、動物園の規則を破ってしまった元さんの行動について考えさせる。 ・立場を選んでその理由をワークシートに記入させ、班内で意見交換後、代表に発表させる。	20/25 5/30
3 資料の後半部分を読んで考える。(懲戒処分通告～最後)	○停職処分であった元さんが、自ら職を辞したのはなぜだろう。 ・規則を破り、多くの人に迷惑がかかってしまったから。 ・自分の判断でしたことだから、責任を取らなければならないと考えたから。 ◎佐々木さんが山田さんに伝えたかったことは何だろう。 ・感情に流されず、きまりを守ることで、動物園の安全は守られる。 ・きまりはとても大切なもの。 ・勝手な判断をしてきまりを守らないと、大変なことになる。	・自分の行動を反省している元さんの気持ちを共感的にとらえさせる。 ・「姉弟や母親に感謝されたので解雇になっても構わない」という考えに流されないようにする。 ○きまりの大切さを感じている佐々木さんの気持ちを共感的にとらえ、きまりを守ることが、入園者の生命や安全を守ることにつながることに気づくことができたか。 (ワークシート・発表)	10/40
4 授業を振り返る。教師の話聞く。	○「私たちの道徳」p136を読み、p136の振り返りにきまりについて考えたことを書こう。	・時間があれば発表させる。	10/50

第1学年 組 道徳学習指導案

平成26年10月22日(水)

1 主題名 真の友情 (内容項目 2-(3))

2 資料名 「近くにいた友」(出典「あすを生きる 1」)鳥取県版 文教出版

3 主題設定の理由

真の友情とは、相手の人間的な成長を願い、互いに励ましあい、高めあい、協力を惜しまないという関係である。中学生の時期は、親や教師に多くの事を委ねていた時期を脱し、同世代の心を許しあえる友達や、よき理解者を求めるようになる。時には、自分の気持ちに反して相手に同調したり、距離感がわからず関係を作ることができなかつたりする子どもも少なくない。特に現代は携帯電話などの普及により、メールやLINEなどでのやり取りが増えている。直接顔を合わさず、相手の気持ちも読み取りづらいコミュニケーションは、時には人間関係の崩壊に繋がってしまうこともある。この時代・時期だからこそ、真の友情や友情の尊さについて理解を深め、信頼を基盤として成り立つ友情がいかに重要なことかを実感させる必要がある。

本学級の生徒は、中学校生活も半年が過ぎ、失敗したときに励ましの声掛けをするような、相手を思いやる言動は見られるが、時には人を傷つけるような軽はずみな言動を発する様子が見られる。また、思ったことをはっきり言えなかつたり、自分の考えを上手に伝えられなかつたりして、トラブルになった生徒や友人関係に悩む生徒もいる。友情を大切にすると他者を思いやる心を育ませることが重要だと感じている。

本資料の「近くにいた友」は、野球部員で上手でない主人公オサムが、知らない相手から「野球部をやめてしまえ……」というメールを受け取り、オサムに対して厳しい声掛けをしていた友人の信也を犯人扱いし、激怒する。しかし、実際は信也ではなく、他の者がやったことをあとで知る。信也はオサムを認める存在で、実はオサムを励まし続けていた。オサムは、信也のことを心から信頼できる友達として考え始める。真実を知り、一転して「一目散」に信也のもとへ向かったオサムの心情の変化を考えることを通して、相手の表面的な言動だけでなく、内面的な良さに目を向けられる友人関係を育ませるとともに、友情を築く上で、相手がどうあるべきかではなく、自分が相手に対してどうあるべきかを考えさせる契機としたい。

4 本時のねらい

オサムの信也に対する気持ちの変化を考えることを通して、互いに心から信頼できる友情を築こうとする心情を育てる。

5 準備物

あすを生きる 1、私たちの道徳、ワークシート、写真、事前アンケート

6 本時の学習課程

	学習活動 (○発問 ◎主発問 ・予想される生徒の反応)	・指導上の留意点 ○評価 (方法)
導入	<p>1 友だちの存在の良さを想起する。 ○自分にとって本当の友達ってどんな人だろう。 ・落ち込んでいるときに、悩みを聞いてくれる人 ・遊んでいるときに同じツボで笑える人 ・負けたくないライバル</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に課題で書かせたアンケートをもとに発表させる。 ・以前「私たちの道徳」に書いた「友だちはどんな存在？」を見返す。 ・日頃感じている友だちの良さを想起させる。 ・学習のめあてとして本時は「真の友情」について考えることを伝える。
展開	<p>2 資料前半 (初め～P92L16) を読んで考える。 ○オサムは信也のことをどう思っていたか。 ・絶対に負けたくない存在 ・あこがれの存在 ・ライバル</p> <p>○「ふとんに潜り込んだ」(P92L3) ときのオサムは、どんなことを考えただろう。 ・一生懸命やってきただけなのに、なんでこんな事言われなさいといけなさい。 ・誰が送ったんだ。誰も信じられない。 ・学校に行きたくない。みんなに顔を合わせたくない。 ・たぶん信也に違いない！今までも言われてきた。どこまで俺をバカにしたいんだ！ ・信也に会ったらなんて言おう。</p> <p>3 資料後半 (P92L17～終わり) を読んで考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・信也をうらやましく思う、誰にでもある気持ちに共感させる。 ・挙手、指名により発表させる。 ・あまり時間をかけず、確認程度で進める。 ・自分なりに頑張ってきたが、自分自身や周りに嫌気がさして自信をなくしたオサムの心情に触れる。 ・まだ心の中では「頑張っている」と思っていたが、メールを見て、その気持ちも吹き飛んだ心情に触れる。 ・信也を犯人だと決めつけ、マイナスの感情を抱いていることに共感させる。 ・ワークシートに記入し、指名により発表させる。
	<p>◎一目散に自転車をこいで信也の家に向かうオサムは、どんな思いだっただろう。</p>	<p>のに…。」と、</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・信也は信頼できる友だちだったんだ。疑ったことを早く謝りたい。 ・自分は何もわかっていなかった、情けない。 ・応援してくれていたんだな、ありがとう。 ・これからは、信也のような友だちを信じて大切にしよう。 ・気持ちを伝えて、明日から学校や部活を頑張るぞ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・L15の「信也って、信也って…」にはどんな思いが込められているだろう。 ・「一目散」という言葉に注目させ、すぐに行動したオサムの気持ちを考えさせる。 ・ワークシートに記入。指名により発表させる。 ○雄一の話聞いて、信也に対する思いが変わり始めた主人公の心情を考えることができる。 (ワークシート・発表)
終末	<p>4 今日の授業を振り返る ○今日の授業を通して、改めて本当の友だちってどんな人だと思ったか。</p> <p>5 教師の説話</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入してまとめとする。 ・最初の回答と変容があるものを紹介する。 ・友だちをつくるというよりも、自分がよい友達であろうとすることが大切なことであることを伝える。

1. 主題名 人間の素晴らしさ (内容項目 3-(3))
2. 資料名 「ネパールのビール」(出典「自分を考える 2」あかつき)

3. 主題設定の理由

人間は、誰しも完全ではない故に、自分の欲求から楽な方へ流されてしまいがちである。しかし、自らの弱さに気付き、良心との狭間で葛藤しながら、自己理解を深め、よりよい生き方をしていこうとすると、人間の素晴らしさがあると考えられる。それは決して難しいことではなく、他者との関係の中で自らの弱さに気付くこともあるだろう。中学生の時期は、人間が内に弱さや醜さをもつと同時に、強さや気高さを併せ持っていることを理解できるようになってくる一方で、自分の気持ちに反して相手に同調したり、自分の欲求を抑えきれず、楽な方へ流されてしまうことがある。そのような自分を変えていこうとする気持ちもあるが、周囲との関係から自分の気持ちに素直になることができない生徒も多い。中学生のこの時期だからこそ、人間のどのようなところに素晴らしさがあるのかを考え、その素晴らしさにより近づけるように自らを振り返り、行動していける生徒を育てたい。

本学級は、元気がよく、積極的に発言しようとする生徒が多い。しかし、目の前の楽しいことや楽なことへ流されてしまいがちで、悪いことを悪いと考えられない生徒も少なくない。これは、嫌なことから目を背け、自分の持つ弱い部分に向き合おうとする気持ちに欠けるからだと考えられる。このような実態にあるからこそ、自らの弱点に気付き、改善しようとする意欲を養う必要がある。そして、新たな目標を持って生活していこうとする意欲に繋げたい。

本資料は、筆者と筆者との約束を果たそうと誠実に行動する少年チェトリとの間に起こった出来事を扱ったものである。ビールを買いに出かけたまま、出発から幾日も戻ってこない少年に対し、心配や後悔をする筆者であったが、ぼろぼろになりながらも帰ってきた少年の姿に涙する。人間の持つ素晴らしさについて考えを深めることのできる資料である。本主題の指導にあたっては、まず、飲まないと決めていたビールを買ってきてくれるという少年の好意に甘える筆者の心情を考えることから、人間の持つ弱さについて気付き、次に、少年が帰ってくるのを待っている間の筆者の心の葛藤を押さえることで、筆者の流した涙の理由を気付かせ、考えさせたい。この涙が多く葛藤の末に自らの弱さに気付いた涙であり、少年だけでなく、自らの弱さに気付くことのできる筆者にも人間としての素晴らしさがあるということに気付かせ、自らの行動を振り返る契機としたい。

4. 本時のねらい

筆者の流した涙の理由を考えることを通して、人間の弱さや気高さに気付き、新たな目標を持って生活していこうとする意欲を養う。

5. 準備物

資料(プリント)、ワークシート、『私たちの道徳』、掲示物、ホワイトボード、マーカー、イレイザー

6. 本時の学習過程

学習活動	○発問◎主発問・予想される生徒の反応	・留意点 ○評価(方法)	時間
1. 主題の提示 2. 資料を読んで考える。	○2度目にチェトリ君がビールを買ってきてあげると言ったとき、筆者はどう思ったか。 ・申し訳ないとは思いますが、昨日も大丈夫だったからお願いしよう。 ・また、あのおいしいビールが飲める。 ・チェトリ君は信頼できるから任せよう。 ○チェトリ君が帰ってこない3日間、筆者はどのようなことを考えていただろうか。 ・頼まなければ良かった。 ・なぜ、「ビールが飲みたい。」なんて言ってしまったのだろう。 ・とにかく早く戻ってきてほしい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> ◎「ちかごろあんなに泣いたことはない。」とあるが、筆者はなぜこれほどまでに泣いたのだろうか。 </div> ・自分の弱さに気付いたから。 ・帰ってきてくれて嬉しかったから。 ・チェトリ君の行動に感動したから。 ・大変なことを頼んでしまった後悔から。 ・自分の欲望のために大変なことを頼んでしまうような愚かな人間であることに気が付き、自分が情けなくなったから。	・本時のめあてを確認する。 ・1回目にビールを飲んだときの筆者の気持ちをおさえておく。 ・チェトリ君の申し出に対して、深く考えず、自分の欲望のまま甘えてしまう筆者の人間としての弱さを、実際にザックに入ったビール1ダースを背負わせることで印象付ける。 ・筆者の判断が、慎重さに欠けるものだったことを押さえる。 ・自分が筆者の立場だったらという視点で考えさせる。 ・何気ない言動が、時として取り返しのつかない大変なことに繋がるということに気付かせる。 ・班で意見交換をさせる。また、出てきた意見はクラスで共有させるためにすべて書かせる。 ・「自分とチェトリ君とを比べて、筆者は何か気づいたのではないか」という補助発問を行う。 ・気高いのはチェトリ君だけではなく、自分の弱さに気付いた筆者もであることを押さえる。 ○筆者の思いに考えを巡らせ、筆者の人間としての弱さや気高さに気付くことができる。 (ワークシート・発表)	5/5 15/20 10/30 15/45
3. 自分について振り返り、今後の生き方について考える。	○今日の授業を通して感じたこと、考えたことを書きましょう。	・『私たちの道徳』のP. 120を読み、普段の生活を振り返るきっかけとさせる。	5/50